

## 令和3年度 第1回 学校運営協議会

日 時：令和3年10月27日（水）18：30～20：00

場 所：高知県立清水高等学校 会議室

参加者：（委 員）岡崎哲也（学校関係者）、斧川哲也（学校関係者）、新谷英生（地域住民）、  
速川志保（地域住民）、福重百合架（地域住民）、田中慎太郎（地域住民）、  
久保卓也（地域住民）、程岡庸（地域住民）、市原庸寛（清水高等学校長）  
（学 校）田中修一（全教頭）、泥谷耕二（定教頭）、岡本直也（事務長）、  
近藤卓（主幹教諭）、小島大和（教諭）  
（県教委）土方聖志（高等学校課指導主事）

記 録：

[開会] 高等学校課 あいさつ

校長 あいさつ

[自己紹介]

[会長・副会長選出]

[学校説明]

[協議]（抜粋）

- 地域の子どもたちが清水高校に憧れを持てるような取組についてアピールをすることが大切である。
- 努力をしている様子や、具体的な成果を発信する仕組みづくりが必要である。
- UTFRについては、今後も継続的に取り組む予定である。今回は中学校とも交流したが、今後は小学校との交流の機会を設け、将来的には東京大学に進学できるようにしたい。
- UTFRとの交流は土佐清水市教育委員会のホームページにも掲載した。高校を含む、土佐清水市内の学校の取組はこのようなかたちで更に発信していきたいと考えている。
- 令和6年には清水中学校の近接地に移転する予定になっている。それまでに、小中高でどう取り組むかを現在各校の管理職を中心に話し合いを行っている。
- 中学生にとって、清水高校に進学してどのような高校生活を送るのか十分にイメージできているわけではない。中学生や保護者に説明の機会を多くし、意識を高めるようにしたい。
- 他地域から呼び込む仕組みづくりも必要ではないか。寮の設置を考えてはどうか。
- 寮の設置については、昨年度から働きかけをしているところだが、最初に設置ありきで進むのではなく、まずは現状の清水高校の魅力化を推進し、その結果として、他地域か

らの進学希望が多くなるようであれば設置を考えていくことになる。

- 基礎力診断テストの結果は近年向上してきている。今後は、さらに底上げを目指し、2年生2回目では全員がC段階以上を目指したい。
- フェア・ヘイブンとの交流をさらに発展させていくべきである。現在の1週間程度の取組から、最低でも3か月程度に拡大し、英語運用能力を確実に身に付けさせるくらいのプログラムにしてはどうか。
- 派遣した生徒が、土佐清水市で市民と交流し、留学の成果を発表できるような機会を設けてはどうか。
- 過去に留学した市民が体験談を発表するなど、高校生にも留学への意欲を高めるようにしてはどうか。
- 他にはない特色ある部活動をおこなってはどうか。釣りやサーフィンなどが候補である。
- 現在の高校生は将来の目的を明確に持っているだろうか。地域に貢献できるような人材づくりが必要であると思う。
- 高校生が市民と交流する機会を持つことも大切である。
- このような話し合いの機会をさらに増やすことも大切である。

[閉会]